

特別委員会報告

ILC調査特別委員会

9月18日の委員会では、「ILC誘致に係る国の2016年度の概算要求の内容」「奥州市ILCまちづくりビジョン策定の進捗状況」「ILC誘致に係る平成27年度の市の取組み内容等」について調査しました。

国の2016年度概算要求は、成長戦略の実現に向けての科学技術イノベーションの推進について1億1千万円が要求されておりました。

市では「奥州市ILCまちづくりビジョン策定委員会」を今年7月に立ち上げ、「まちづくり・地域生活支援分科会」「産業振興分科会」「福祉医療・教育分科

地域医療調査特別委員会

7月10日の委員会では、特定医療法人 社団 清和会理事長 佐藤芳邦氏を招き、江刺区内の診療所の運営状況等や診療施設が抱える課題や救急医療の現状等について懇談を行いました。

7月17日は、岩手県立胆沢病院 勝又宇一郎院長を招き、県立胆沢病院の現状や地域医療構想、奥州二次医療圏における公立病院の役割や医療機関の連携等について懇談を行いました。

会」の3つの分科会で内容を検討しながら、12月の策定を目指して進められているとのことでした。また、ILC計画の周知と受入気運の醸成やILCの実現を見据えた環境整備に向け取り組みを行っており、水沢江刺駅内観光案内所のスペースの有効活用を進めてほしいという意見がありました。



水沢駅みどりの窓口に設置したILC横断幕

各医療機関が抱える問題や課題についてお話をいただき、今後の地域医療のあり方を検討協議する上において、有意義な懇談会となりました。



清和会理事長 佐藤芳邦氏（左側）

第2回奥州市議会臨時会 一般会計補正予算（残土処理費）を撤回

残土処理に関わる経過

奥州万年の森公園内の残土問題に伴う市議会臨時会は7月21日に開催し、市長から提出された処理費用9800万円を盛り込んだ平成27年度一般会計補正予算を審議しました。庁内情報共有の不備や事務処理上の問題の指摘を受け、市長は議案撤回を申し出し、採決の結果賛成15、反対11で承認しました。

審議の冒頭、市長は17日にメガソーラーの建設を行うNTTファシリティーズの本社を訪問し、副社長と協議したと報告しました。費用のあり方に関して再度協議する約束を得たとして「最終的な責任は私にある。市にかかる経費を少しでも軽減するための努力を重ね、必ずその結果を出したい」と述べました。

質疑では、今年3月になって初めて市長と担当部長が残土問題を把握するなど庁内の組織の問題や重要案件について文書を介さず口頭でのやり取り、事務処理の問題を批判する意見が多く出ました。

市は、同公園敷地に隣接する胆江地区最終処分場の造成工事が出た残土を同処分場の覆土用と一般の公共工事用として同公園内に保管していた。当初、仮称・奥州スマートインタートーチェンジ（IC）の造成工事で残土の大半を使えると思込んだが、今年3月に活用できないことが判明した。市は、昨年5月、同公園での太陽光発電事業者の公募を始め同年8月にNTTファシリティーズを選定した。同年6月の現地説明会で事業者側に対し覆土分を除く残土を含め敷地を賃貸する考えを示していたが、一方ではスマートICでの活用を見込んでいた。しかし同社の問い合わせに対し、市に担当者が昨年11月、残土を市側で撤去する旨を口頭で伝えた。

市が示した処理方針では、同公園近くの民間の新規処分場に市が全量搬入する。覆土用の6万4600立方メートルを保管し、活用先が見当たらない5万7400立方メートルは廃棄する。